



とても簡単！小畦立て播種で大豆の湿害を回避して収量アップ

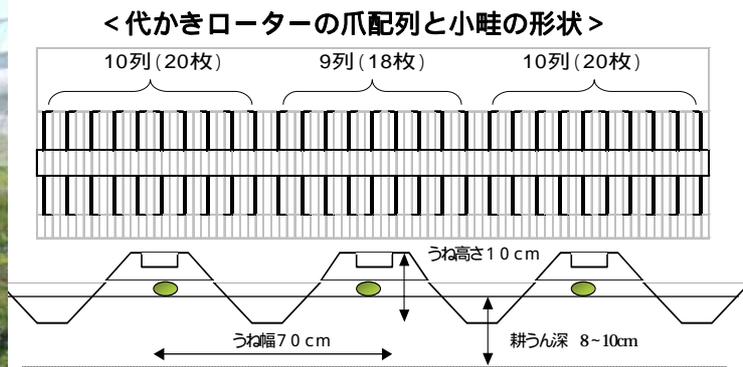
【1 成果の概要 代かきローターでとても簡単に畦立て播種】

代かきローターの耕耘爪の配列を変更し、均平板を取り外し、ロータリカバーを吊上げ、大豆用の施肥播種ホッパを付ければ、高さ10cmほどの小畦を立てながら施肥は種する小畦立て播種機がとても簡単にできます。

小畦立て播種機は30馬力台のトラクタでも装着でき、時速2kmの作業速度で十分な碎土性能が得られます。大豆の播種精度や播種後の出芽状況も良好です。



小畦立て代かきローター播種機



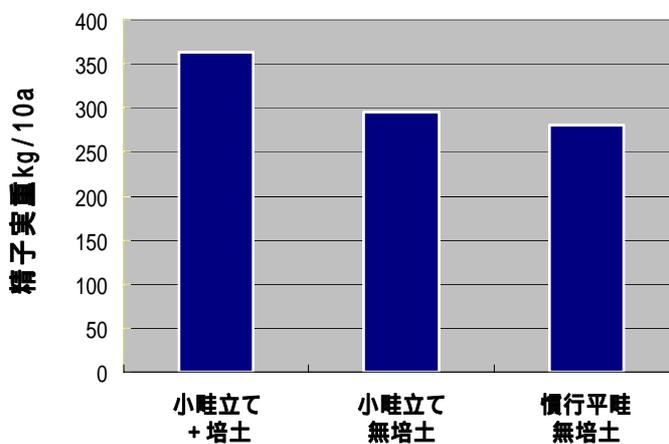
【2 この技術を使い大豆の湿害を避けることによって、収量が高まります】

<現地試験圃場の大豆の生育量>



(播種41日後、品種：ナンブシロメ)

<現地試験圃場の大豆収量>



【3 この技術を上手に使うために】

暗渠、明渠、サブソイラーなどの排水対策をしっかりと行い、また、小畦立て播種の直前までに耕起、整地を行っておくことが必要です。開花前までに初生葉が隠れる程度まで中耕培土を行いましょ。

【4 活用できる場面とコスト】

県下全域の水田転換畑（重粘土を除く）で梅雨期の湿害で困っているところで導入できます。

コストはお手持ちの代かきローターに大豆播種機を取り付けるマスト部品料（約4万円程度）です。